

令和5年度第1回障害者施策推進審議会のまとめと計画（素案）への位置付け

資料1

	委員からの主な意見・質問	事務局の回答	計画（素案）の該当ページ
1	グループホームはまだ必要であると思う。	福祉計画の策定において目標値など検討していく。	資料4 P40
2	成年後見制度を知らない人が多い。周知を充実させる必要がある。	課題として認識している。「もだま」とともに取り組んでいきたい。	資料4 P32
3	災害時にどう対応していくのか。高齢化もあり、助け合うことが難しいこともある。	個別避難計画の策定に取り組んでいるところであり、避難計画や必要となる支援など整理していく。	資料4 P52
4	特別支援学級在籍児童は年々増加している。教育と福祉の連携により一層取り組んでいく必要がある。	発達支援センターに教員を1名配置し、相談の対応をしている。学校に行きにくい場合の過ごしの場合もあり、教育委員会とは定期的に会議を開催して連携を図っている。	資料4 P45
5	相談支援体制の充実、人材不足への対応が必要。	基幹相談支援センターを設置し、多岐にわたる相談等への対応を始めたところである。センターによる相談事業所のバックアップ、相談員のスキルアップ等を充実させていきたい。	資料4 P37
6	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築を進めてもらいたい。	昨年度は課題を整理するため、医療機関を訪問し、意見交換を実施した。圏域での協議を進め、ケアシステムの構築を進めたい。	資料4 P36
7	相談員1人でどれほどの人数に対応しているのだろうか。フォローやスキルアップが必要である。	1人で30名から80名程度を担当している。研修などの開催を予定している。また、相談事業所を訪問し、課題の抽出もしているところである。	資料4 P37
8	施設整備の促進は大切だが、開設後の運営に問題があってはいけない。運営面で問題があれば指導をお願いしたい。	施設整備の前に事業者の審査はしている。開設後に問題があれば連絡をお願いする。内容によっては県と連携して対応していく。	資料4 P32
9	障害特性の理解促進が大切である。啓発を押し進めてもらいたい。	今後も押し進めていきたい。	資料4 P31
10	サロン等で参加者が悩みなどを話し合うことである程度は解消できることもある。	障害者福祉センターで開催している。また、当事者団体がそれぞれ開催しているサロン、孤立化防止事業として開催しているサロンなどがある。	資料4 P52